

親や周囲に感謝する気持ちを持っていますか？（令和２年３月号） 西郷どんの教えその１０

まちづくり・くにづくりに最も大切なのは「人智の開発」と西郷さんは言っています。人智の開発とは、人の知恵・知識を新たに開発し、心を開き目覚めさせることですが、これこそが人材教育の目的であり、それは「愛国忠孝（国を愛する、親に忠孝の道を尽くす）」という心を開かせるということです。よく学び、知恵を磨くことは、親への孝行であり、それは、よい学校をつくり、よい町・国をつくることにつながる。「見た目はどうだっていい。心の豊かさ、やさしさが大事」と文明開化が進む明治初期に、西郷さんは日本の行く末を心配していたのかもしれません。先進文化国家とも見えた諸外国に一時でも早く追いつき、追い越したいと思って国づくりは進められました。しかし、焦りにも似た近代化が反動的にもたらす我が国に及ぼすマイナス指向現象に予見と警告を述べられたのであったと言われていきます。ＡＩの発達、ＩＣＴの普及が進み、５Ｇの時代が迫ってくる今、これからの社会・町はどうなっていくのでしょうか？ 少子高齢化が進む今こそ、「町づくりの基本を忘れるな」という西郷さんの言葉が身に染みるのです。如何なる時も基本を忘れず、愛国忠孝の心を開くことが大事で人の心も町も豊かになると感じるのです。